

各 位

## 平成29年1月1日改定・実施の日本卓球ルール（改定概要）

公益財団法人 日本卓球協会

平成28年1月1日と平成28年3月一部修正の国際卓球連盟ルール改定を受け、国内ルール改定を行います。

- (注)・波線のアンダーラインは、国際卓球連盟（ITTF）が2016年1月および3月に新設したり、変更したり、追加したりしたものであることを示す。  
 ・二重線のアンダーラインは、日本卓球協会が独自に新設したり、修正したり、追記したものであることを示し、2017年（平成29年）版で修正する予定のものであることを示す。

## 1. 条文

## 第2章 競技ルール

## 2.5.1 アドバイス

2.5.1.3 競技者は、それによって競技が遅れさえしなければ(2.4.4.1)、ラリー中を除いていつでもアドバイスを受けることができる。アドバイスを与えることを認められた者であっても、違法にアドバイスをした場合、主審はイエローカードを掲げ、これ以上そのような行為が続けば競技領域から遠ざけられることになる旨、その者に対して警告する。

（国際卓球連盟では平成28年10月1日適用開始）

2.5.1.3.1 高校生以下の大会では、競技者は、ゲームとゲームの間の休憩時間、あるいは認められた競技の中断時間にのみアドバイスを受けることができるが、練習時間終了時とマッチ開始の間はアドバイスを受けることはできない。アドバイスを与えることを認められた者であっても、このほかの時間にアドバイスをした場合、主審はイエローカードを掲げ、これ以上そのような行為が続けば競技領域から遠ざけられることになる旨、その者に対して警告する。

（※ H.28.6.1 改定の国内現行ルール）

（※2.5.1.3.1は、旧2.5.1.3に「高校生以下の大会では、」を追記してそのまま移行。高校生以下の大会を対象とした国内限定ルール。）

## 2.5.2 競技者、監督、コーチのバッドマナー

2.5.2.8 重大な不正行為やマナー違反の場合には、主審の報告によると否とにかかわらず、審判長は競技者の試合、競技種目または全競技の出場資格を取り消す権限を有する。この措置を行う場合に、審判長はレッドカードを掲げるものとする。出場資格取り消しを正当化しないようなそれほど重大ではない違反の場合には、審判長はそのような違反について大会運営委員会(2.5.2.14)に報告するかどうか決めることができる。

2.5.2.14 大会運営委員会は、指名された大会委員長および競技委員長、審判長等からなり、適切な制裁を決定するものとする。

2.5.2.14.1 資格取り消しを正当化するような重大な違反の場合は、大会運営委員会は理事会に報告する。報告を受けた理事会は、競技者規程（罰則）第12条にもとづき懲罰小委員会を設置する。

2.5.2.14.2 懲罰小委員会は審議・理事会報告し、競技者は理事会の決定により罰則を受けるものとする。

2.5.2.15 違反した競技者、アドバイザー、役員による理事会の決定に対する抗議は、JTTAに15日以内に行うことが出来るが、JTTAの決定は最終的なものとする。

2. 公布年月日  
平成 28 年 10 月 1 日

3. 改定年月日  
平成 29 年 1 月 1 日

以上

各 位

平成28年度天皇杯・皇后杯全日本卓球選手権大会に参加される方へ（お知らせ）

大会委員長  
大会審判長

平成29年1月1日付けでアドバイスに関する新ルールが適用されます。大会に参加される選手・アドバイザーの方に新ルールでの対応事例をお知らせ致します。

### 【日本卓球ルール抜粋】

#### 2.5.1 アドバイス

2.5.1.3.1 高校生以下の大会では、競技者は、ゲームとゲームの間の休憩時間、あるいは認められた競技の中断時間にのみアドバイスを受けることができるが、練習時間終了時とマッチ開始の間はアドバイスを受けることはできない。アドバイスを与えることを認められた者であっても、このほかの時間にアドバイスをした場合、主審はイエローカードを掲げ、これ以上そのような行為が続けば競技領域から遠ざけられることになる旨、その者に対して警告する。

※このルールは、平成28年6月1日改定の国内現行ルールです。高校生以下の大会に限定したルールとして平成29年1月1日以降も継続します。（選手の自立を促し育成することが目的です。）

2.5.1.3 競技者は、それによって競技が遅れさえしなければ(2.4.4.1)、ラリー中を除いていつでもアドバイスを受けることができる。アドバイスを与えることを認められた者であっても、違法にアドバイスをした場合、主審はイエローカードを掲げ、これ以上そのような行為が続けば競技領域から遠ざけられることになる旨、その者に対して警告する。

※このルールは、日本卓球ルールとして平成29年1月1日から適用となります。競技に遅延をきたさなければアドバイスをすることは違反ではありません。

（ベンチも一緒になり大会を盛り上げ活性化させることが目的です。）

#### 【アドバイザーは、次の場合にアドバイスができ、違反にはなりません。】

- ・ラリー中でなければ、いつでもアドバイスを与えることができます。
- ・ゲームとゲームとの間、および競技が中断しているとき。
- ・選手がタオルを使用しているとき。
- ・選手がすでにボールを掌に乗せ、サービスの準備をしようとしているとき。

#### 【選手は、次の場合にバッドマナー（遅延行為）と判断されます。】

- ・ラリー間にアドバイスを受けるためにアドバイザーのところに行ったとき。
- ・ボールを拾いに行くとき、ボールのある位置ではなく、明らかに回り道してアドバイザーにアドバイスを受けたとき。
- ・アドバイスを受けながら、非常にゆっくり移動し台に戻るとき。
- ・ボールがコート外に出たとき、アドバイスを受けるためにアドバイザーのところに行ってもよいが、相手選手がボールを回収しコートに戻ったとき、直ちにテーブルに戻らなかったとき。

◆高校生以下の選手が出場する場合の、ルール適用は以下のとおりです。

- ・全日本ジュニアの部では、2.5.1.3.1のルールが適用されます。
- ・一般の部・ダブルスの部では、2.5.1.3のルールが適用されます。

以上

# 試合で正しいサービスを出すために ～ ルールにあったサービスを出せていますか？ ～

公益財団法人 日本卓球協会  
ルール・審判委員会 編

近年、小学生や中学生などの大会で、サービスの乱れが指摘されています。注意を受けても正しいサービスが出せない選手がいるとの指摘もあります。

選手の皆さんの努力はもちろん、指導者の皆さんの協力も欠かせないと考え、サービスルールの要点をまとめ、お知らせします。

正しいサービスを身につけるためには、日頃の練習が欠かせません。この文書を参考にして、ルールにあった正しいサービスが出せるように練習して、地域の大会や全国大会に参加しましょう。

次に書いてあるサービスはルールにあっていません（違反サービスです）



## サービスを始める時

- しっかり動作が止まっていない
- ボールをのせている手のひらが開いていない
- ボールが手のひらではなく、指にのっている
- ボールの位置がエンドラインの内側にある  
(ボールをのせた手や腕はエンドラインの内側に入ってもよいが、ボールは入ってはいけない)
- ボールの位置がプレーイングサーフェス(卓球台の表面)の下にある  
(投げ上げる時の反動で、プレーイングサーフェスから、ボールが下がってもいけない)



## ボールを投げ上げてから打球する時まで

- ボールを、ほぼ垂直方向に投げ上げられなかった
- 手のひらや指でボールに回転をかけた
- ボールが手のひらから離れたあと、16 cm 以上上がっていない  
(審判員はネットの高さ(15.25 cm)を基準に判定します。ネットの高さ以上に投げ上げること)

- 打球までに何かほかのものに触れてしまった  
(天井の照明、競技者の体やユニフォームなどに触れた場合)
  - ボールが上がっていく途中で打球した (ぶっつけサービス)
  - ラバーを貼っていない面で打球した
  - ボールをサーバーの体で隠した
  - ボールをダブルスパートナーで隠した
  - ボールを投げ上げたあと、手や腕をすぐに「ボールとネットとの間の空間」から外に出さなかった
  - エンドラインの内側(台の上)で打球した
  - プレーイングサーフェスより下で打球した
- ※サービスが正しいかどうか疑わしいと審判員が判断した場合、その試合で最初の疑問であれば「レット」とコールされ注意が与えられる。明らかな違反サービスは、レットではなく、最初から「フォールト」となり、相手のポイントになります。



### サービスを打球した(出した)あと

- サーバー側のコートに触れなかった
- サーバー側のコートに触れたあと、レシーバー側のコートに触れなかった
- ダブルスで、サーバーのコートの左半分にボールが触れた
- ダブルスで、サーバーのコートの右半分にボールが触れたあと、レシーバーのコートの左半分に触れた

ルールにあった、正しいサービスができるように練習しましょう！

以上